
銃と異世界と僕と

滝田

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

銃と異世界と僕と

【NZコード】

N4481S

【作者名】

滝田

【あらすじ】

軍才タ、FPS中毒の風山直人

ゲームのしすぎで寝坊して高校に走るが事故で死んでしまう

そして目覚めたら真っ白な空間に一人の幼女が立っていた

*主人公は一次元が嫌いです

オーバーキル（前書き）

この小説が終わり次第「異世界侵略作戦」の続き投稿したいです

オーバーキル

高校に遅れそうで急いでいた銃オタ&FPS中毒の風山直人
突然きたトラックに引かれ死亡した、彼はこのまま天国
に逝くはずだったのだが?????なんと神様のミスだったので
ある?

そして彼は転生する事になったのである、神様にチートを頼んで(

脅して)
チートを貰った

その、能力とは
武器(アサルト、ショットガン、etc...)の召喚
施設、設備(発電機、電波塔、基地、etc...)の召喚
無限の知識(毎分更新)

不老不死

異常な回復力

年齢の操作

その他色々

・・・なぜこうなつた

転生

＊＊＊＊・・・＊＊＊

朝を知らせるアラームが部屋に鳴り響く

風山「う・・ん」

朝4時までゲームは少し堪えた

あんな時間にも日本人ユーザーがいるのが驚きだ

そして重い体を動かして朝食を作る。

これでもバリバリ高校生だ・・・彼女いなide
目が覚めたあと時計を見ると8時15分・・・!?

学校の登校時間8時20分で家から15分・・・遅刻だあーーー!

ドアが壊れる勢いで部屋を出て国道の歩道を疾走する
ちよつじ田の前の信号が青になつたので渡る・・・

・・・その時!!--目の前に歩いていた女子高校生

がトラックに轢かれそうだ!!

しかもその子は携帯をいじつていて気づいてない!!

そしてやつと気づいたが驚いていて動けないようだ

俺は女子高校生を突き飛ばした

女子高校生は安堵した表情だが俺の方を向くと
また驚いた顔になつた

ふと横を向くと、トラックが俺の目の前に来ていた。
この間2秒ほど

ドン

視界が真っ白になる
肺の中の空気が抜けた感じがする
不思議と痛みが感じない

キヤアアアアアアアー！！

悲鳴が聞こえる

ドシャ

ふつうは人が落ちるとトンとかドンとかだが
この時隼人はグチャグチャになつていた

痛みが感じないのは体中の神経が千切れたらだからだ
簡単に

地面に落ちた時に視界が白から黒に変わった

気がつくと真っ白な場所

ここは？俺は隼人

記憶ははっきりしている

？？？「あら、目が覚めました？」

声が聞こえた方向を向くと幼女がいる

隼人「君は？」

神「私は建造の神様」

直人「神様？」

神「そうよ」

直人「へえ・・・」

神「・・・短刀直に入ります、あなたの死は私のせいです」

神「^{トランク}玩具で遊んでいたら手が滑っちゃったんだ」

直人「どうしてくれるんだ――――！」

ホッペをつねる

神「むう～むむ～！！」

すると神（幼女）は涙目＆上目遣いで見てくる、並みの男ならイチ
コロだらう

直人「・・・」

神「むう！？む～！！」

これでつねるのをやめてくれるのかと思っていたのか
驚いてる・・・何人の男、一部女子があの目で見逃してしまった
か・・・

ホッペをつねる

直人「残念ながら俺はロリコンでは無い」

神「ムグゥウウ～！」

その後数分間続いた・・・

神「ヒック、グスン・・・」

本気で泣き出しそうだったのでつねるのはやめた

神「・・・では一つのみ願いをかなえて異世界に転生します」

腫れたホツペを摘まんで

直人「一つ・・・？」

神「分りましたっ！―つねるのやめてっ！―」

まだ何もしてないのに

えーとじゃあ

作者「見ずらいけど我慢してね キラッ」

直人「まず聞くが、異世界は科学が進んでいるか？」

神「いいえ、魔法があるので科学が進みません、まったく・・・
科学者より魔法研究者ばかりなので地球のように電気などは
あなたが干渉しなければ永遠に開発できませんね、魔法で
間に合っているので必要がないのです」

直人「分った、じゃ言つぞ」

直人「まず、武器、搭乗物などの建造、それを扱う
知識、技術。不老不死、どんな環境でも生きる
異常な回復力、不死なので殺せず。また、一瞬で回復、
再生できる。すべての知識、無敵の発想力、あ、
ON、OFF出来るように。年齢を変更出来る能力。
おまえ（神様）に連絡でき、能力を追加出来る（強制）
あ、あと人類で一番イケメンに」

・・・これくらい？

神様「・・・多いけど、ま、いつか」

こんなんのが神様でいいのか。

神様「じゃ、転生しまーす」

目の前がブラックアウトした。

転生（後書き）

更新頑張りたいです

異世界にて（前書き）

申し訳ありません！！
前回「直人」が「隼人」
になつていました、正式には直人です
すみませんでした×

5月13日にこの誤字は修正しました

異世界にて

俺は今、自由落下中である

ぐんぐんと地面が近づく

直人「チエストオオオオオオオオ！」

謎の叫びを上げながら激突した

トラックの時の数十倍の衝撃だ

普通の人なら即死だろう・・・・

SIDE シベラード

俺は シベラード・アルテミット
身分は高級貴族だ

この世界は貴族がいるが、威張り散らす貴族は下級貴族ぐらいだ。

中、高級貴族は威張る人は一人もいない
なぜなら下級以外は、国王が許可しないとなれないののだ
例えば、国、民のために働いてなおかつ礼儀正しい人間じゃないといけないので

俺はギルドの討伐依頼を完了させ、王都に帰路についていた
その時！！

「チエストオオオオオオオオ！……」
と、上空から声がして見てみると
人が落ちてきた

グチャアアアアアアアア！！！

謎の人間は頭から落ち、血が噴き出す

シベラ 「うつ・・・」

俺は死体を確認しに近づいた。

死体は男性のようで頭が潰れていて、顔は分らない

俺は死体が誰なのかは、分らなかつた
転移に失敗したのか？

そうして考えて約三秒

メキ・・・

シベラ「？」

メキメキ！－ボキッ！－

シベラ「－！－！－？？？」

なんと死体が再生しだしたのだ

そして四秒後・・・

そこには一人の美少年が立つていた

? ? ? 「・・・ やあ」

俺とシベラードと神と

直人「・・・やあ」

余裕そうな言い方だが
内心精神崩壊状態だった

なぜならあり得ない激痛だったからだ
しかも落ちる瞬間を見たのだ・・・

直人「（なあ神）」

神「（なあに？）」

直人「（能力追加だ、過度の痛みのシャットダウンと
無敵の精神）」

神「（わかつたよー）」

すると一瞬で精神が安定した

？？？「そろそろいいか？」

あ、そういうえば誰かいたのか

直人「はい」

シベラ「俺の名はシベラード・アルテミジト」

直人「俺は風山・直人です」

シベラ「フーヤマ? ナオト?
聞かない名だな、どこ出身だ?」

直人「遠ーい、異国です」

シベラ「そつか、ではなぜ空から?」

言い訳考え中・・・

直人「色々有つて・・・」

所詮この程度です・・・あ、発想能力使えば良かつた
だが後の祭り

シベラ「へえ・・・じゃあ今の回復は?」

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

¥(^_^)/オワタ

なにもかも話すことにした

（数十分後）

シベラ「そうか・・・大変だな」

直人「はい・・・」

シベラ「だつたら俺の部屋にこないか？」

直人「良いのですかつ！？」

シベラ「あ、ああいよ、これでも俺と母さんと親父は高級貴族だからな、余り部屋がいっぱいあるよ」

直人「じゃあ、行きますか」

シベラ「おう」

こうして直人とシベラードは歩きだした

俺といシベラードとい神と（後書き）

なぜか顔文字が変になる

¥ (^ > o >) -

これが¥になってしまつ

（屋敷）

直人「・・・」

言葉が出なかつた、
なぜならありえねーほどでかいんだよつー！

日本じゃ絶対見れないな

俺とシベラードはずかずかと中に入つていた

シベラ「まず両親に顔合わせてからな」

（書斎）

両親説得中

父「まあいいだろ？？

母「そうねえ」

なんとか許可はもらつた

父「俺はナルタだ」

母「私はアクアよ、よろしくね」

直人「こちゅうじん

ナルタ「よし、じゃあ部屋に案内するか」

そういうして俺はある部屋につられてこられた

ナルタ「今日は疲れたと思うから今日はもう寝なさい
あとテーブルの上のボタンを押すと使用人がくるから」

直人「ありがとうございます」

ナルタさんと別れ、部屋に入ると・・・でか!!
少し予想してたけどこれは大きすぎるだろ!!

でも疲れが押し寄せてきて俺はフカフカのベッドに
ダイブした。

明日から家（基地）作らないと
いつまでも迷惑かけられないし

そんな事を考へていると田の前がブラックアウトした

住居確保（後書き）

少し短いですがお許しください

巨大基地（前書き）

非常に見ずらいと思いますがスミマセン

巨大基地

シベラードの家に来てから早数日
俺はいつものところに図面を持って移動した

いつもとこりとは、いまここにいる国・・・アースと言つ
元地球人についてはうれしい名前だった
もちろん役所に許可はもらつて・・・無い

そんないきなり「国境に基地建たせてください」
なんていえないからである

なので極秘裏にこの基地を建設したのだ

脳内検索で検索したらとつてもいい立地を見つけることができた

出来るだけ高地で移動しやすく人目に付かず水を確保でき
両国を見渡せる場所に海に続く大河・・・そつこの場所である

さて図面を出し基地を建設する

基地の施設はこんなにある

食堂（自動調理）食糧庫、武器庫、車両庫
生体実験室、科学実験室、指令室、図書室（資料室）
通信室、排水処理、ポンプ室、発電室（中性子）牢屋
・・・また増設予定

城壁の上に・・・100・5滑走砲、ファランクス、対空、対地ミサイル

基地中心部に・・・核ミサイル発射口、自爆システム（発電室爆破）

地下・・・自爆システム（予備）、薬物流失システム（後で解説）

宇宙・・・人口衛星（G.P.S）

増設、大量生産予定

ユニット

歩哨ユニット

防御ユニット（稼働式オートガン）

修復ユニット

マイドユニット（掃除、調理、お茶出し）

監視ユニット（カメラ、赤外線センサ、振動センサ）

司令ユニット（陸、空、海、後で解説）

・・・新開発、大量生産予定

解説

薬物流失システム・・・故意に薬物を下流の王都に流す
疫病の血清から虐殺ウイルスまで・・・量はコンピューターが管理する

司令ユニット・・・単に言えばアンドロイド、数万の戦略を記憶、

想定している

直人の趣味では無いが、全員美女、感情も持っている

巨大基地（後書き）

ちょっと力作

俺は出来たての自室の中で休んでいる

直人「ちょっと無理しすぎたかな・・・」

肩がカツチカチだ

その時、ガチャリと扉が空き、何かが入ってきた

最初の人・・・アンドロイドが目の前で並んだ

メア「私は陸軍の司令官メアだ」

アスナ「えっと私は空軍の司令官アスナです」

ラレア「私は海軍司令官のラレアでぇーす!!」

メアは灼眼で赤い髪

アスナは蒼眼で白い髪

ラレアは蒼眼で青い髪

メアはツンツンしていて男みたいなしゃべり方

アスナはリーダー的な雰囲気

ラレアは元気ハツラツ

なんだか面白くなつてきた。

自室にて（後書き）

直人は二次元が嫌いです、大事なことなので（ry

ギルド～前章～

小説本文 基地を造り、司令官とあこがれの握手

俺はギルドの前にいる
シベラードに勧められてきたのだ

木製の扉を開けるとそこはテーブルが何脚かあり
昼間から酔っている人がいる

まあ、そんな事を気にすること無く

受付と思われるテーブルに行くと受付嬢に声をかけた

「はい、疾風のギルドに来ていただきありがとうございます」

受付嬢は普通に接客してきた（当たり前だが）

ナオ「あの、新規登録したいんですけど」

受付「では、ここに年齢と武器、魔力量と職業を書いてください、
また

20歳未満16歳以上なら親の許可証をもらってきてください」

（ピンポンパーン）

ナオ（お前か・・・）

神（そうだよー）

ナオ（で、何の用だ）

神（君の魔力量何（いらん）へ？）

ナオ（魔法が有ると萎える）

神（はあ・・・じゃあ魔力量は1000にしていたから）

ナオ（ん、あんがと）

受付「あ、あの・・・」

ナオ「あ・・・ああ、すまんね」

普通に書き
こつなつた

- - - - - - - - - - - - - - - - 新規登録 - - - - -

年齢 24歳（偽造） 名前 ナオト・フーヤマ

魔力量 1000mp（ランクB） 武器 銃

職業 ガンナー 全科 無し （印）

- -

- - - - -

受付「銃とはめずらしいですね」

この世界には
火縄銃みたいなやつしかなく、命中力と攻撃力が心
もとない

そこへ

大男「よお兄ちゃんよー新規のヒヨツ」が俺の前で
頭下げないとはいひ度胸だなあ・・・金をくれないなら
表にでな」

取るに金が少ないと

ナオ「てめえこそいい度胸だなあ」

大男 — なんだと！！

ナオ、そのでかい体、邪魔だから消えて！」

大男一キサマノアノアノ！！！！！」

ナオーじゃ、表に行こう

続
<

ギルド（後章）

続き

大男「死ねえええ！！」

ギルドの表で大男が叫ぶ
野次馬もけつこう来た

「おい、あいつジョナサンを怒らせたぞ

「あのヒョロヒョロは瞬殺だねえ」

「あの木製みたいな棒でなにをする気だ？」

俺は今 AK-47を男に向いている

空砲で脅そう

大男「うりやあああああ！！」

こいつ馬鹿か？
突っ込んでくる

ズパパパパパパン！！

大男「つ！？」

大男は引き下がる

様子を見ているよつだ

ゴム弾に変えて

プシュプシュプシュー！！

ゴムは大男に命中し、 気絶した

ナオ「あつけないな」

「おおおーー！」

「嘘・・・ジョナサンが負けるなんて・・・」

「あいつ、 何者だ？」

周りがざわつく

俺は気にせずギルド内にもどった

受付「こ、こちらがギルドカードになります」

カードをもらい、 ギルドを出た

酒場の人全員俺見てるよ・・・

出口を出た所で

大男「死ねえええーー！」

ナオ「！」

ぐしゃああ

いきなり横から切りつけてきた

俺は大男の鎌で首を飛ばされた

大男「うつしゃー！」

すると転がっていた頭部が砂のようになり、消えた

大男＆野次馬「！？」

倒れていたナオの切断部分が再生しだした

大男「うそだろ！？」

数十秒後には直人が

直人は某蛇が愛用しているスタンナナイフを建造し、男の腹部にあてがい、放電した

大男「あばばばばば」

感電してまた気絶した

そして俺は氣絶している大男と睡然としている野次馬と大量の血痕を放置し、そそくさとその場を後にした

その後、王都じゅうで

「謎の武器を持つ悪魔現れる」

「人間では無い人間」

「縁の悪魔（迷彩服を着ていたため）」

という内容の噂が流れ、新聞にもなった

ギルド～後章～（後書き）

おまけ

王都新聞

昼間に悪魔現れる

今日昼ごろ、賑わうギルド「疾風のギルド」にて新規登録を申請した男性、フーヤマ・ナオトと名乗り銃を選んだ、その後、各ギルドで新規登録者を脅し、大金を巻き上げていたジョナサン（34）がその人を脅すが、彼は逆に挑発した、この時点で、ギルド内にいるハンター達は、彼とジョナサンに注目していたそしてギルドの表で彼は、謎の武器（銃らしき武器）を使い、爆音を鳴らしてジョナサンを牽制した、その後彼は、非殺傷と思われる弾を発射した、ジョナサンは気絶したがすぐに復活、ギルドカードをもらい、ギルドを出た直後、復活したジョナサンに首を切り落とされ、全員彼の敗北したと思っていたしかし彼はなんと生き返ったのだ！！これを見ていた人に話を聞いてみました

以下略

初の任務～前章～（前書き）

更新不定期ですみません

初の任務／前章

この前の事件後、数日がたち

～食堂～

アクア「最近謎の武器を使った人がいるから
気おつけるのよ」

ナオ（俺です）

なんか吹きそうになつた

シベラ「どうした？」

ナオ「何でもない、後、俺今日、ギルド行くから

アクア「気おつけて」

～ギルド～「疾風のギルド」～

ナオ「ここにまはー」

受付「ビクッ！…」

オイオイwww

ナオ「依頼を」

受付「…、いらっしゃりです…」

涙目だよw俺嫌われてる?w

受付「もっ申し遅れました、ア、アンナでス…」

どんだけびびってるんだよw

ナオ「これで」

アンナ「い、一名様契約！」

ナオ「じゃ

ガチャ・・・バタン

アンナ（意外とカッコ良かつたなあ）

「森（死の森）」

ナオ「けつこう深いなあ」

数分後

ナオト「いたいた」

今回の目標はコブリンだ、その姿は
人間のような感じである

俺は今川が目の前に流れる小高い丘の端のいる、
敵は川の向こう側にいる

川 僕

敵 / - - - -

一一￥ / - -

敵は水飲みに夢中、俺には気づいていない

絶好のチャンスだ！！

敵は6匹・・・いける

俺は夢中でバレットM82を呼び出し、スコープを覗いた

・・・何かが足りない・・・

そうだ、観測兵がない

しうが無いのでロボットを出す

ナオ「よし」

スコープの十字がコプリン頭部少し斜め上を狙い・・・

ズパーーン!!

s i d e ハブリン

俺は今、仲間の給水の護衛をしている

そろそろ樽もいっぱいになるだろ
そんな事を考えていると

ズパーーン!!

「ギュア」

水を汲んでいた仲間が真っ二つになつた

全員水を放棄し村に逃げようとしている

が、

ズパーーン・・・ズパーーン

次々と仲間が死に、ついに俺一人になった

「はあ・・はあ」

あと少し・・・あと少し

ヒュン、と風を切る音がすると、足に激痛が走った

「！！」

足が粉々になつた

俺はバランスを崩し転倒した、何とか這いつぶばつてでも逃げようとすると

ヒュン

と音がして俺の意識は闇に放り投げた

s i d e o u t

ナオ「ふう・・・」

終わつた、が、今回の任務は村の撲滅だ

すぐにどうするか考え始めた

続く

初の任務（後章）

続き・・・

ナオ「そうだ！！」

AH - 64 アパッチ
を取り出した、操縦はAI
攻撃は直人が行う

スペック

本体名称 AH - 64 アパッチ

攻撃武器1

名称 M230 30mm機関砲

搭載量 最大1,200

射程距離 最大3,000m (3km)

攻撃武器2

名称 AGM - 114 ヘルファイア空対地ミサイル

搭載量ヘルファイア空対地ミサイル のみ最大16発

射程距離 4,000m (4km)

直人「・・・いける」

直人は後部座席に座る

A.Iが反応してローターが起動する

するとA.Iが姿を変え

アスナ「こんにちは、マスター」

直人「ああ」

直人「敵村3,5km前」

アスナ「了解」

パタパタパタパタパタ・・・

side 村長

私はゴブリンの村の長、アロハ

性別は女性、16歳（人間の年で300歳）

最近は人間がうざい

いちいち村を漬しに集団で襲つてくる

が、全員殺して村の数km先の森の広場に吊るす

とくに女は過酷な拷問に処して醜く殺して広場に吊るす

こうしたら人間も侵入者が減った

しかしこの日は違つた

アロハ「何事だ！！」

ドカーン！！
・・・・・ヒューハー！

そこへズタズタの兵士が入ってきた

兵士「アロハ様・・・お逃げ・・・ドサ」

アロハ「えええい！！敵はビームだ！！

私が成敗する！！」

ドアを開けて家を出ると田の前の広場がクレータになっていた

アロハ「村自体に損傷はないな・・・よし・・・皆の者・・・
反撃だ！！」

オオオオオオ！！！

兵士「申し上げます！！千里眼をの索敵の結果
敵は村正面！！距離は3～4kmだそうです！！」

アロハ「何！？そんな遠距離からこの威力を保つて
魔法を発動したのか！？」

魔法は遠くなればなるほど威力が弱くなり
命中も悪くなるし不発も多発する

そんな事を考えると鉄の塊が猛スピードでこちらに飛んできた

グワーン！！

彼女の死体はまるで広場に吊るした
死体と同じような状態だった――――――

side out

ナノハの死後、村は致命的に劣勢だった

飛んでくる鉄の塊、それは無差別に村を破壊する

そして16回鉄の塊が飛んでくると

今度は本体が出て来た

その本体は謎の形をしており村人を見つけては火を噴き
ゴブリンを粉々にした

即に女、子供は皆、ミンチになっていた

兵士は弓などで攻撃するが弾かれ反撃でその人を
弓」と粉々にしてしまった

森に隠れてもアンドロイドのアスナは見逃さなかつた

1時間もかからずに任務は完了した

ナオ「帰るか・・・」

後にの残つた物は、破壊された家と
粉々になつた村人とアロハだけだつた・・・

歩兵の確保（前章）

この前の任務から数日

町外れで散歩している時、

ナオ「・・・？」

森の方に誰かが入つて行く

直人はその者について行った

森を歩く事数分、家が見えてきた

その数も結構、小さな町だ

ナオ「おかしいなあ」

こんなところに町なんて無かつたのに

知識で検索すると

盗賊の村（名称無し）

男性80人 女性40名 子供30名 計150名

村の主な働き

・強奪

・スリ

・下級貴族からの依頼の暗殺・工作任務

特徴

・子供は18歳以上しかおらず最高48歳

・強者を主導者とする風習がある

門番「何者だ」

ナオ「あなた達を捕まえにきました」

門番「貴様つ……」

グサ

俺の心臓に槍が突き刺さる

ナオ「その程度か?」

門番「!?」

ナオ「少し眠つてな」

ドス

氣絶させた

門を潜る

盗賊1「何者だ!!」

数人に囲まれる

ナオ「俺はこの村でもっとも強きもの
この村の最強を出せ」

盗賊1「貴様!!」

盗賊2「まで」

盗賊「こいつ・・・我らの指導者を倒した!?」

ナオ「え?」

俺が倒した人は門番だけ・・・門番・・・まさか

ナオ「まさか・・・門番?」

盗賊「・・・そうだ、あいつはロー・ティー・ションで今日
門番なんだ」

www

ナオ「まず、全員集まれ」

数分後

ナオ「よし移動するぞ」

全員「え！？」

ナオ「俺の基地があるんだ」

そして俺らは盗賊の町（名前なに？）を出た

続く

歩兵の確保 ～後章～（前書き）

今回、「異世界征服作戦」の連載を再開いたしました、「J愛読してくださった皆様、勝手に更新を止めてしまい、申し訳ありませんでした

初見の方も、「J愛読していただけると嬉しいです、感想なども歓迎です！！

<http://nocode.syosetu.com/n9903q/>

歩兵の確保（後章）

一同「これほどまで・・・大きいなんて」

みんなが驚いてる

ナ「ちょっと待つて」

一同「？」

パン、と、手をたたく

次の瞬間、目の前の土地が光りだした

一同「！..！」

兵士たちが瞬きしたころには立派な宿舎が建っていた

一同「何にもいえねえ・・・」

ナ「ふうん、お前はロンか」

直人は元盗賊の元主導者を自室に呼んだ、この施設・・・軍事基地は、施設が何個も有るが、そんなに通路が入り組んでいない、敵に攻められて、敵を混乱させる事が出来ないが、全体を把握しやすいので、このような基地になつた。

話を戻すが、彼の名前はロンだという

あ、兵士達は自動海兵隊式訓練装置とスピーカーによつて訓練している

私の自室から彼らが走つたり腹筋しているグラウンドを見渡せる

ロ「よろしく、直人」

ナ「ああ、よろしくな」

二人は互いに握手した

歩兵の確保 ～後章～（後書き）

更新めっちゃ遅れてすみませんでした

何回に分けておこる？（前書き）

だいぶ不定期になります

王宮に呼び出されしー？

王宮に呼び出された

（回想）

それは、まだ昼間ことだった

昼食を食べていた直人だったが、携帯の受信音から事が始まる
ピロピロ と携帯が鳴るも、内容を見ると、玄関側のカメラに入
影があった
すぐに直人は玄関に向かった。

扉を開けると鎧を身に付けた兵士が立っていた

「何か御用ですか？」

「はい、王宮直属から手紙を渡してほしいと」

手紙を受け取ると中身を確認する。

具体的にまとめると。「無断で国境に何かが建つたので説明をして
ほしい」と書いてあつた

兵士を帰らせた後、直人はハンヴィーに乗り王都に向かった

城下街には検問が設置されていたが、手紙に書いてある印を見て通
してもらつた（車は林に隠した）

その後王城に行くわけだがもう深夜なので、宿に泊まった

ああ、明日は面倒だなあ・・・

直人はそう思った

「異世界征服作戦」は、この小説より更新されているので、そちらもお読みいただけます

感想などもこっぱいくれると励みになります
「異世界征服作戦」は、この小説より更新されているので、そちらもお読みいただけます

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4481s/>

銃と異世界と僕と

2011年10月9日16時58分発行